

# 分散形多重伝送システム DATA・M

## DLA1、DLC、DLS

### 設置マニュアル

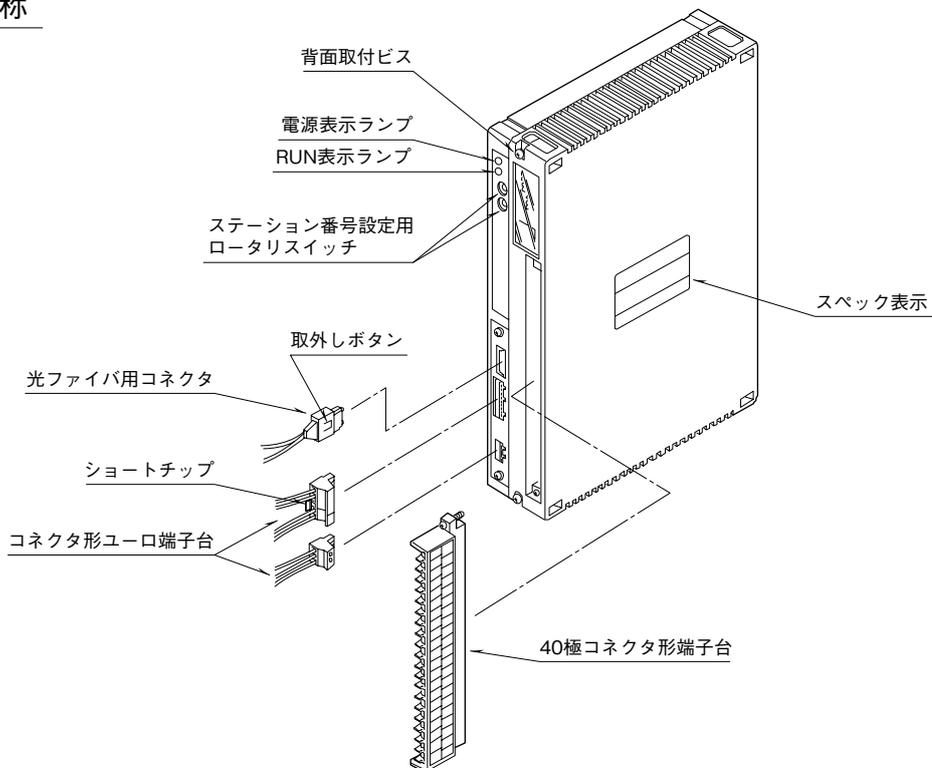
このたびは、弊社の分散形多重伝送システム DATA・M をお選びいただき誠にありがとうございます。  
この DATA・M を設置の際には、ぜひ下記の事項をご確認の上、ご使用下さい。

#### DATA・M の設置は、以下の手順で行います

1. 全ての DATA・M の SA (ステーション番号) の設定
2. 電源の接続
3. 伝送ケーブルの接続
4. 外部機器との入出力の接続

次に、各手順の注意していただく事柄を説明します。

#### 各部の名称

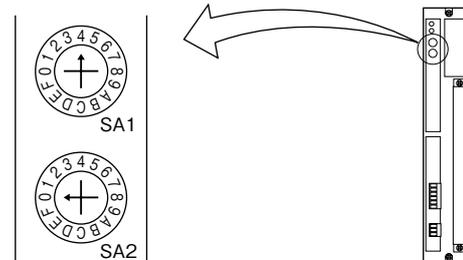


#### 1. SA (ステーション番号) の設定

SA は、2桁の16進数 (00H ~ FFH までの 256通り) で表し、前面パネル左上方の SA1 と SA2 のロータリスイッチで設定します。(図1)

SA1 には SA の上位の桁を、SA2 には下位の桁を設定します。

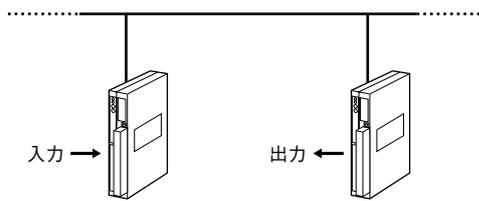
例えば、SA を 40H にするときには、SA1 を「4」に SA2 を「0」に合わせます。



(図1)

## 2. SA と各ユニットの関係

### 2.1 入力ユニットと出力ユニットの組合せ

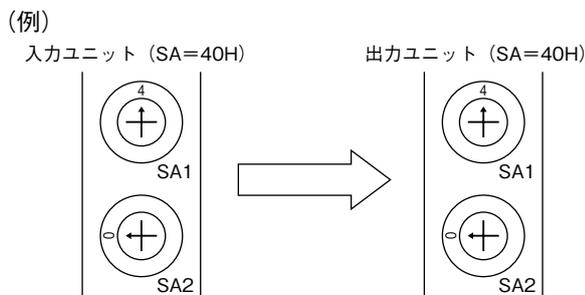


入力ユニット（形式：A1、A2、G1、P1）は、そのユニットのSAと同じSAの出力ユニット（形式：C1、C2、C3、C4、M1、U1）に信号を送ります。（図2）

1台の入力ユニットの信号を複数台の出力ユニットに送る場合は、対象となる全ての出力ユニットのSAを、入力ユニットと同じSAに設定します。

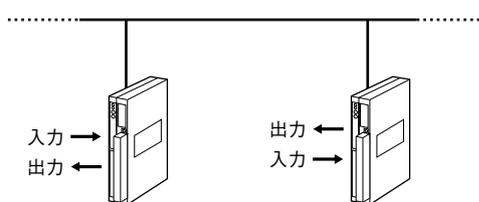
ただし、接点64点入力ユニット（形式：A2）は設定したSAと、そのSAの次の番号を使用します。

よって、その他のユニットのSAには連続する次の番号を飛ばして設定します。



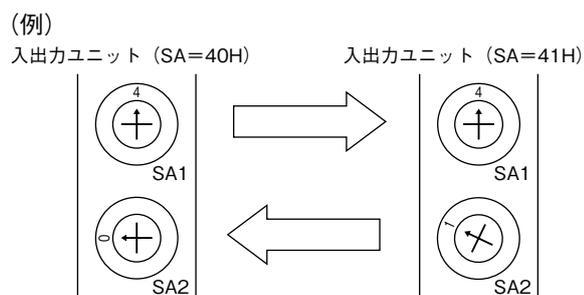
(図2)

### 2.2 入出力ユニット同士の組合せ



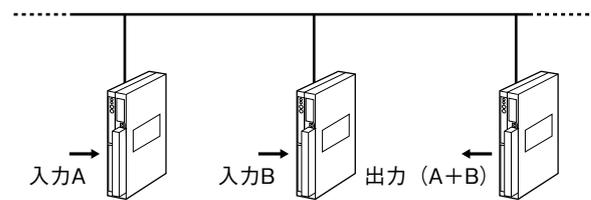
入出力ユニット（形式：E1、E2、R1、S1）は、同じ入出力部を持つユニットとペアで用います。

SAの設定は、まず一方のユニットを「偶数番号」に合わせます。次にもう一方のユニット（相手局）を、先ほど合わせた「偶数番号」に1を加えた番号に合わせます。

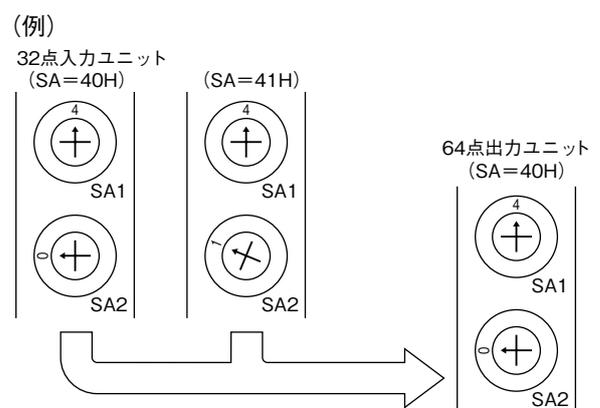


(図3)

### 2.3 接点32点入力ユニットと接点64点出力ユニットの組合せ

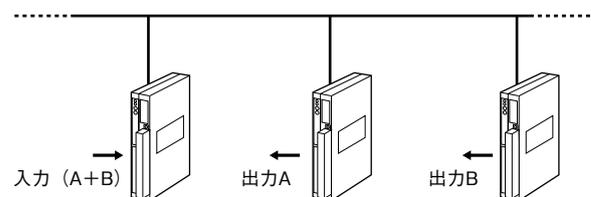


32点入力ユニット（形式：A1）2台分の入力信号を1台の64点出力ユニット（形式：C3、C4）に出力する場合。64点出力ユニットと同じSAの入力ユニットが出力ユニットのch 1～32に、SA+1の入力ユニットが出力ユニットのch 33～64に割付けられます。



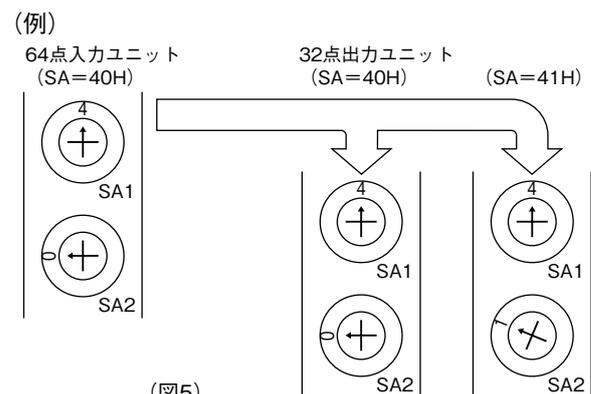
(図4)

### 2.4 接点64点入力ユニットと接点32点出力ユニットの組合せ



64点入力ユニット（形式：A2）の入力信号を2台の32点出力ユニット（形式：C1、C2）に出力する場合。

64点入力ユニットと同じSAの出力ユニットが入力ユニットのch 1～32を、SA+1の出力ユニットが入力ユニットのch 33～64を出力します。

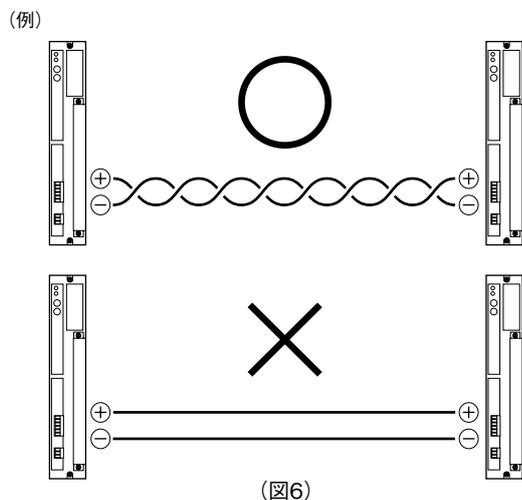


(図5)

### 3. 伝送ライン

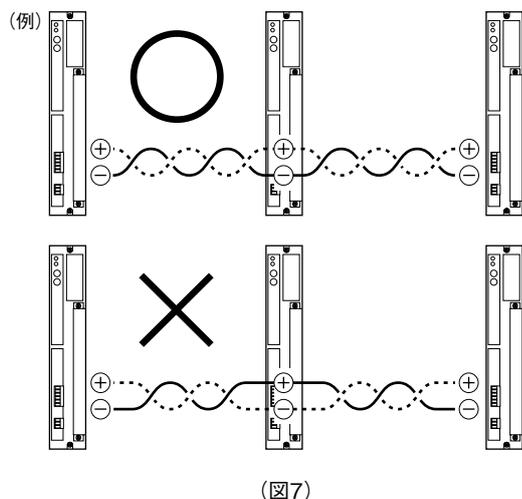
#### 3.1 より対線

より対線は、伝送ライン接続端子 (LINE) に接続します。(図 11、12) 伝送ライン接続端子には+と-の極性があります。必ず 0.9 φ 以上のより対線を使用して下さい。(推奨ケーブル：CPEV-0.9 φ)



(図6)

より対線を接続する極性は統一します。+側に接続したケーブルは、全ての DATA・M の+側に接続します。1台でも極性が間違っていると正常な伝送が行えません。(図 7) 参照



(図7)

#### 3.2 光ファイバ

光ファイバは、光ファイバ用コネクタ (FIBER LINK) に接続します。(図 11、12) (出荷時、このコネクタにはカバーが付いています。接続の際に取外して下さい。) 光ファイバの布設に際しては、使用ケーブルメーカーの取扱説明書をよくお読みになって下さい。

##### ●断線チェックについて

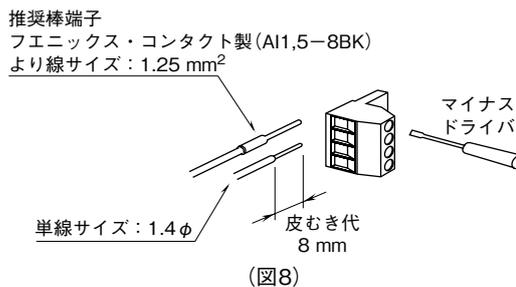
光ファイバは、一方の端から懐中電灯をあて、もう一方から目視することにより簡単に断線チェックができます。

### 4. コネクタ形ユーロ端子台

電源・伝送ライン (より対線使用時)・RUN 接点出力は全てコネクタ形ユーロ端子台を用いて接続します。(図 8)

コネクタ形ユーロ端子台はプラグ式コネクタ構造で、プラグはコネクタから取外せません。ケーブルはプラグのねじ止めにより結線します。接続に用いるケーブルは撚線の場合は棒端子付を、単線の場合には 1.4 φ までのものをお使い下さい。撚線をお使いの場合、芯線を半田付けしないで下さい。

コネクタ形ユーロ端子台の接続



(図8)

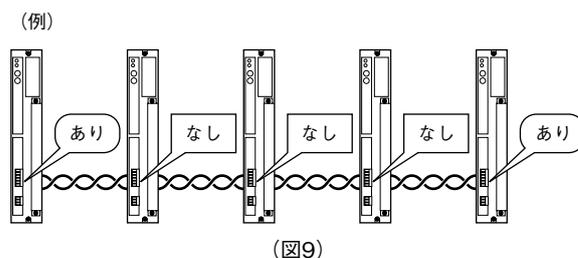
### 5. 終端抵抗

より対線の伝送ラインの両端には、反射による伝送波形ひずみを防ぐために、終端抵抗が必要です。

出荷時終端抵抗入切端子 (RT) には、DATA・M に内蔵の終端抵抗を短絡するためのショートチップが接続されています。

#### 5.1 伝送ラインがより対線の場合

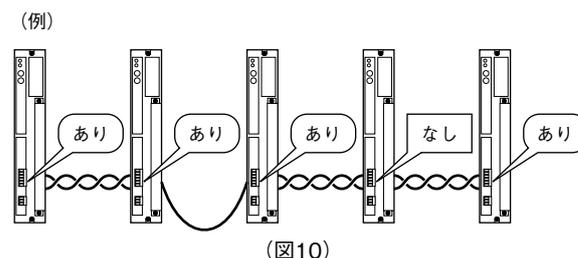
システム構成が3台以上のとき、より対線の両端の DATA・M 以外に接続されているショートチップを取外して下さい。



(図9)

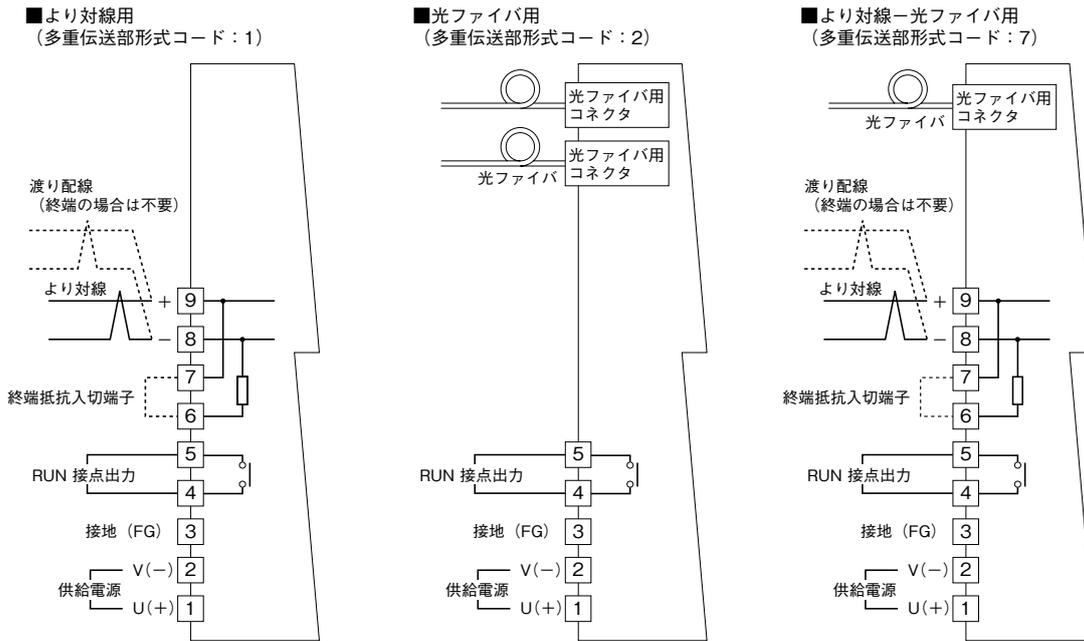
#### 5.2 伝送ラインがより対線と光ファイバの混在形の場合

より対線の両端の DATA・M および多重伝送部形式が“7” (より対線-光ファイバ用) の DATA・M 以外に接続されているショートチップを取外して下さい。



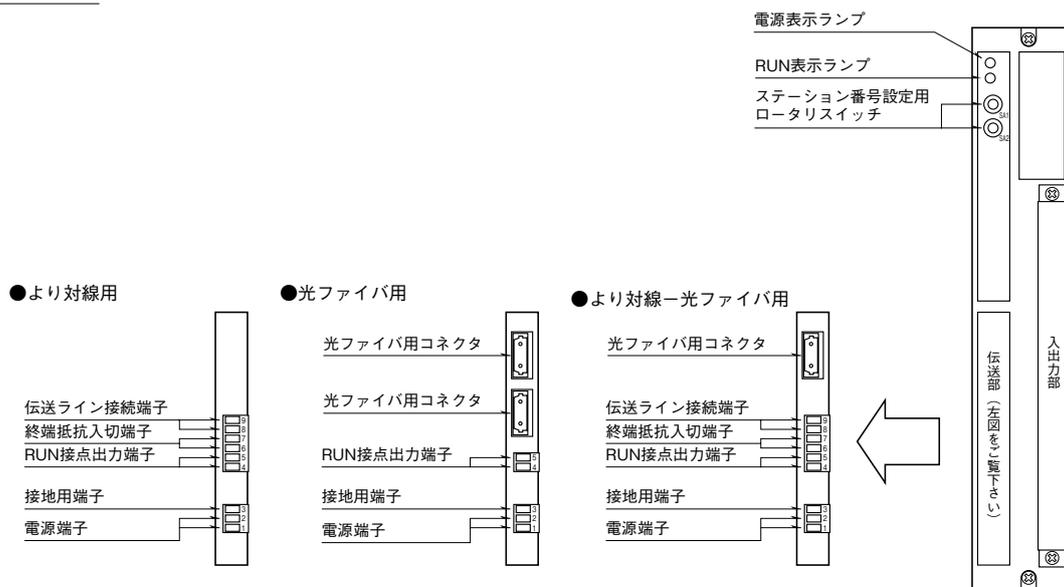
(図10)

伝送部・電源部端子接続図



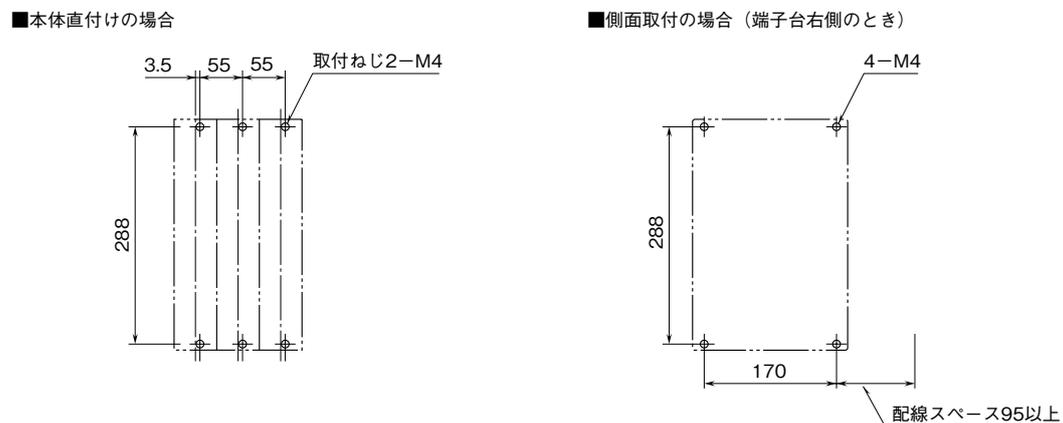
(図11)

前面パネル図



(図12)

取付寸法図 (単位：mm)



(図13)